

OSSのLMSを全学運用する方法と、

理想のデータ活用を実現する解決策とは

Panasonic



はじめに

LMSは「学修者本位の教育」を実現するためのDX手段のひとつです。退学防止、学生の学力向上はもちろん、学びの質の向上、学生の主体性向上など、これらを実現するためのシステムとして活用されることが理想といえます。そのため、LMSを導入している大学には、LMSによってデータの蓄積・共有・活用を実施できる環境が必要不可欠です。しかし、LMSを活用する大学の多くはOSSを活用しており、その柔軟性が故に運用面で多くの課題を抱えています。LMS本来の導入価値を得るにはまず運用面での課題解決に取り組み、その後データ利活用が可能な環境構築に取り組むことが重要です。

そこでこの資料では、

「**パナソニック デジタル株式会社（以下、パナソニック デジタル）**ならではの**LMS運用課題解決方法とLMSのデータ利活用方法**」を紹介します。

目次

Contents

はじめに	02
LMSの効果を得られない大学が多い理由	03
理想のLMS運用環境	04
LMSの運用問題を解決するResonant LMS XP	05
Resonant LMS XPによる運用改善事例：①公立学校法人北九州市立大学様	06
Resonant LMS XPによる運用改善事例：②文京学院大学様	07
LMSのデータ活用理想像と実現方法	08
レゾナントソリューションズ×パナソニック デジタルによるデータ利活用導入事例	09
LMS本来の価値を見出すならパナソニック デジタルにお任せ	10

LMSの効果を得られない大学が多い理由

大学でLMSを使用する場合、ほとんどがOSSのLMSを採用しています。OSSのLMSは低コストかつ柔軟性に優れているというメリットがありますが、必要以上にカスタマイズされてしまい、全学での運用が困難となる大学が増えています。

また「専門知識のある現担当者であれば運用が可能なものの、退職や異動による担当変更後は運用が難しそう」「専門知識がある自分は活用できているが、運用まで考えると手が回らない」といった問題を抱える大学も少なくありません。

OSSのLMSによって生まれる問題



必要以上のカスタマイズにより操作性が複雑化する

OSSはカスタマイズしやすいというメリットがあるからこそ、カスタマイズを必要以上に実施してしまい、操作性が複雑化する。その上、アップデート対応できない状態にも陥る



専門知識がある担当者しか使いこなせていない

知識がある担当者は使いこなせるが、異動や退職による担当変更後は使いこなせなくなってしまう



ガラパゴス化する

LMS本来の価値を生み出せず、導入したはいいものの、使いこなせない状況に陥ってしまう

運用における問題が原因でLMSの本質的な価値を享受できていない大学がほとんど

理想のLMS運用環境

LMSを全学で運用することが可能になれば、データの蓄積・共有・活用がよりスムーズに行われ、LMS本来の価値である学力向上や主体性の育成を実現しやすくなります。そのためには、カスタマイズは必要最低限に抑えつつ、アップデート対応できるかどうか、セキュリティ上の問題は発生しないかなどの確認が都度必要です。また、マニュアルを作成したり、操作性を改善したりすることも理想のLMS環境構築に貢献します。しかし、これらは時間と手間がかかるため、実施できている大学はほとんどないと言っても過言ではないでしょう。

理想のLMS運用環境

01

カスタマイズは
必要最低限に抑える



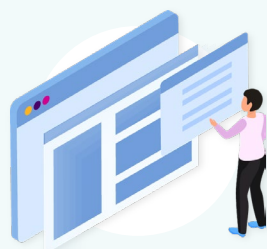
02

マニュアルを作成し
管理/運用しやすい
環境を構築する



03

カスタマイズする度に
モジュールの棚卸しを行い、
管理する



04

誰が使っても
わかりやすい操作性に
カスタマイズする



これらを実施できる大学は少ない上、運用のしやすさを求めカスタマイズが複雑化し負のスパイラルに

LMSの運用問題を解決するResonant LMS XP

近年、LMSの運用課題を解決するLMSとして、Resonant LMS XPが注目されています。様々な大学にて導入実績があるOSSの「Moodle」を基盤に、国内の大学で実績のあるプラグインや独自にカスタマイズしたプラグインがインストールされており、学校ごとのニーズに沿った運用が可能なのが特徴です。また、開発元のレゾナントソリューションズとパナソニック デジタルの事前ヒアリングによって開発前に要件定義を済ませられ、スムーズに導入できる点もメリットのひとつです。

Resonant LMS XPの特徴

「Moodle」を更に使いやすく
開発している



Moodle単体の白黒のシンプルなUIに対し、グラフィカルで直感性に優れたUIを採用している

スムーズな導入が
可能



レゾナントソリューションズとパナソニック デジタルによる事前のヒアリングによって開発前に要件定義が済んでいる

機能追加に過不足ない
プラグインが
インストールされている



アップデートに対応しているプラグインのみがインストールされているので、管理が煩雑化しない

PC、タブレット、
スマートフォンに対応している



OSおよびブラウザは原則、最新バージョンがサポートされる

Resonant LMS XPなら、全学でLMSを活用できる環境構築ができる

Resonant LMS XPによる運用改善事例：①公立学校法人北九州市立大学様

導入後の成果

稼働の標準化を実現



履修登録が集中する繁忙期は、時間割変更・履修登録変更の対応など1日あたり3~4時間ほどの追加稼働が必要であったが導入後は学務システムとの自動連携によって標準化ができ、**追加稼働時間（3~4時間）を丸ごと削減**できた。

操作性の向上



Moodleの白黒の操作画面から、グラフィカルかつ直感的に操作できるUIに変更することで**直感的な操作が可能**になった。

業務負荷の軽減



Resonant LMS XP導入前は毎日何らかの問合せが来ていたが、導入度の問合せ件数は**1週間に1件あるかないかに減少**した。

導入前の課題



システムの陳腐化とガラパゴス化

大学全体のLMS（Learning Management System）としてMoodleを利用していたが、プラグイン（追加機能）の独自開発を続けるうちにシステムは陳腐化し、ガラパゴス化していた。



継続な運用・保守が困難になった

仕様や各種設定、バージョン管理、セキュリティの担保状況など、それらを完全には把握できず、学務システムとの連動も手動で行っていたため、履修登録状況をはじめデータの不一致が発生。

パナソニック デジタルによるサポート内容



01 プラグインの利用履歴やバージョン、整合性、代替品などの徹底調査

約20個あったプラグインを半分に。
Microsoft Teamsとの連携プラグインまでサポート

02 シングルサインオンの実装

使い勝手の大幅向上

03 学務システムとの連携

Moodleコースの作成、履修者の反映などを、すべて自動化

04 継続的なサポートや保守

伴走支援によるスムーズな運用体制構築を支援

Resonant LMS XPによる運用改善事例：②文京学院大学様

導入後の成果

システム運用が一元化した



これまでMoodleのカスタマイズをする際に、改修内容に合わせて様々な会社へ依頼していたが、今回の導入を受けてそれを一元化できた

学生の成長の可視化



紙ベースで作成していた履修カルテをポートフォリオとして可視化。半年や年単位の振り返りが可能となったことで専門職としての成長が可視化できるようになった

アナログな側面を重要視する

教育方法のデジタル化



Showcase機能によって教員・学生双方で内容を確認可能。人間性の成長に対する振り返り機会の創出に成功した

導入前の課題



運用が煩雑化していた

利用者が少ないにもかかわらず、サーバーの構築・運用、セキュリティ対応バージョンアップ対応などに苦勞していた



従来のLMSでは機能が不足していた

学修ポートフォリオ、ループリック、自己評価+リーダーチャート表示機能、学修ダッシュボード機能などの、学修成果の可視化ができる機能が必要であった

Resonant LMS XP選定理由

01 必要な機能が実装されていた

Resonant LMS XPは、日本で要求されているアセスメント機能をはじめ、必要とする機能が実装されている

02 クラウドメリットが最大限生かせる

3カ月単位での利用が可能でコスト面等でも柔軟に対応可能

03 スマホ対応している

より多くのユーザーにLMSを使用してもらえる

04 短期期間でシステム構築できる

3カ月という短期構築でのシステム構築を実現。Resonant LMS XPを提供するレゾナント・ソリューションズとの情報連携や進行管理などの導入支援も実施

LMSのデータ活用理想像と実現方法

LMSの本来の価値は、データを活用して退学防止・成績向上・主体性の育成といった学校課題を解決することです。データを蓄積させ可視化し、分析、共有するというデータ活用において基本的な作業を簡単に実施できる環境の構築はもちろん、いかにデータ利活用におけるカスタマイズを施せるかも重要な要素になります。そこでポイントとなるのが、そもそものLMSの基本機能の充実と、開発元・ベンダーのサポート体制/品質です。

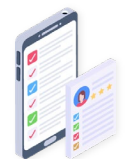
Resonant LMS XPの開発元であるレゾナントソリューションズは教育機関向けにLMSの導入・カスタマイズ支援を行っている上に、他システムとの連携やeポートフォリオシステムの構築・提供を行っています。加えてベンダーであるパナソニック デジタルは、教育機関での実績が豊富なため、各大学に合う理想のデータ利活用環境を構築できます。

LMS活用で大学が実施すべき理想のデータ活用



学習データの分析

受講者の学習進行状況やテストの点数、得意分野苦手等のデータを取得し管理する



学習データの可視化

各種データを可視化することで、学生だけでなく教員や管理者がデータをチェックできる体制を整える



学習データの共有

システム連携によるデータの共有によって、学びの質向上や学生の主体性を育む施策に落とし込む

上記をすべて実践できて初めてデータ利活用の土台が整う

Resonant LMS XPのデータ利活用における開発・導入支援面での特徴

大学に合わせた細かなカスタマイズにも対応ができる



Panasonic

開発元のレゾナントソリューションズによりカスタマイズ支援が可能

教育機関での実績が豊富なパナソニック デジタルによる周辺環境のソリューション提案も可能

開発会社とベンダー双方向からのアプローチにより理想のデータ利活用環境を構築する

Resonant LMS XPはLMS本来の価値を引き出し、学生主体の学習体験を提供する

レゾナントソリューションズ × パナソニック デジタルによる データ利活用導入事例：国立大学法人東京工業大学様

レゾナントソリューションズ×パナソニック デジタルによる支援内容



カスタマイズ支援

01 Moodleの カスタマイズ

学生が自ら進んで学べるプラットフォームの構築を実現

02 ダッシュボードツール 「Re:dash」の実装

学生の修学上の意思決定場面を支援するアナリティクス機能を実装



学校側が得られる価値

01 専門ツールでも簡単に カスタマイズできる

通常はカスタマイズ時に専門ツールの知識やLMSとの連携方法に関する知識が必要で、時間もコストもかかる

02 データの見せ方を 柔軟に変更可能

教育現場の事情によって適宜変わるデータ活用ニーズに合わせた活用が可能

03 柔軟なサポートを 受けられる

エラー対応をはじめ、急遽事情が変わるような状況でもサポートを受けられる

LMS活用背景とニーズ

01 「学修意欲の高い学生をさらに伸ばすこと」を目標に掲げ、LMSに蓄積された学修データの分析を試験的に開始したい

02 まずは教員向けに授業動画の視聴ログをグラフ化して提供。データ活用による授業の最適化を目指したい

03 最終的には「自分の希望と同じキャリアパスをたどった人は過去どういった学習をしていたのか」「同じ目標を持つ同期の学習履歴は自分と比べてどうか」といったデータを学生に提供し、道しるべを提示したい



早期立ち上げのため、OSSの導入経験が豊富なレゾナント・ソリューションズ株式会社とパナソニック デジタルに構築を依頼

支援成果



1本の動画の中でも特に見てほしい部分を、学生がきちんと見てくれているかどうかを確認できるようになった

講義動画の場合、「説明がきちんと伝わっていない部分がないかの確認に活用できるようになった」

Resonant LMS XPなら、全学でLMSを活用できる環境構築ができる

LMS本来の価値を見出すならパナソニック デジタルにお任せ

LMSの本来の価値は、データの活用の先にある学校課題の解決にあります。本来の価値を得るためにまず重要なのが、運用しやすい環境の構築です。Resonant LMS XPなら、属人性を排除し知識の有無に関わらずLMSを使いこなせるようになる上にデータ利活用を行える環境も構築します。LMSを活用して、**退学防止・成績向上・主体性の育成などを実現したい**場合には、是非パナソニック デジタルにご連絡ください。

LMS導入後の運用やデータ利活用にお悩みの方は

パナソニック デジタルにお問合せください

お問合せはこちら



パナソニック デジタル株式会社

大阪本社



06-6906-2801



〒530-0053 大阪市北区末広町2番40号 Panasonic XC OSAKA

東京本社



03-5148-5634



〒104-0061 東京都中央区銀座8丁目21番1号

Panasonic